

# コルテス 伊藤の我が音楽人生

## 第22回 本物のシンガーとの出会い

皆さん、無事に年を越されましたか？今日現在コロナの感染が猛威をふるい東京の感染者が3日続けて2,000人を越え、3,000人も目の前に近づいており、本当に恐怖さを感じる毎日、どうかお気をつけまして。

昨年7月にあるライブを予定していましたが、コロナの影響で中止せざるを得ない状況でした。ミュージシャンとお話させていただき延期にしました。日時は11月21、22日の2日間。実はこの時は本当にライブを開催するかギリギリまで考えました。なぜなら今ほどではないにしても徐々に感染が拡大し、果たしてお客様に来ていただけるのか？コロナは大丈夫なのか？迷いました。私とはにかく感染防止をまず第一に考え、ここまでやるのかと思わせるほどの予防対策をしました。この、ライブは私一人でも聞かせていただければ良いとの決断をし、挙行することをミュージシャン側にお伝えいたしました。

ミュージシャンの方も意気に感じていただいたのか、電話からも意気込みは伝わってきました。当日は熱心なファンの方々も感染防止に協力していただき、感動のライブが無事に終了いたしました。2日間に渡って熱唱していただいた方のお名前は三浦和人さん。

1980年に「愛はかげろう」という曲で一世を風靡したあの『雅夢』のリードヴォーカリストとして、当時のテレビ番組のベストテン、夜のヒットスタジオ



にはよく出ておりました。同時期に流行っていた曲は五輪真弓さん「恋人よ」、渡辺真知子さん「迷い道」、オフコース「さよなら」、松田聖子「青い珊瑚礁」などどれも名曲ばかりですね。この頃の

歌は私の青春。40年前ですから！！

まさか、こんなウィルス感染が現代社会を苦しめるとは思いませんでしたね。三浦和人さんの楽曲は女性の心の奥の一番繊細な感性に語りかけます。実は、「愛はかげろう」以外にもっと良い曲がたくさんあります。私は「百年の恋」、「愛が居た場所」など好きな曲がたくさんあります。よろしければ、youtubeなどで検索してみてください！！

今、コルテスは無期限休業、無期限自粛体制に入りました。正直、怖いです。私は持病がありますし、そういった意味では目に見えない恐怖とどう向きあうて行くのか？

前線でコロナに立ち向かっている医療機関の方には本当に頭が下がります。安倍政権の時に一人100,000円を支給（0歳の子どもにまで）、こんな予算は今戦っている医療現場の方々に支給すべき。アベノマスクも無駄の無駄。政治家は甘い。

コロナは音楽を始め、芸術文化まで殺そうと思っています。しかし、三浦和人さんの歌で「帰らぬ河のほとり」という歌があります。これを聴いて涙しながら、今の状況の苦しさを打開するのは、我々一人一人の必死に戦う力じゃないかと思いました。

● みんなで、笑って音楽やスポーツを楽しむ時代を願ひましてペンを置きます！！